

令和3年度 英語教育充実プラン 高知市立義務教育学校土佐山学舎		研究テーマ (英語教育推進方針)	学習指導要領を具現化した小学校外国語教育の在り方について ～言語活動を通じた主体的・対話的で深い学びの実現～			
年度当初の状況 (4～5月調査を記載)		到達目標	年度末の到達目標達成状況 (2月調査を記載)			
調査項目 (意識調査の項目)			肯定的回答%	達成状況	考察	
児童	①英語の授業で英語を使って発表することが楽しい。	1 児童意識調査の肯定的回答の割合の向上 ・全項目において、強い肯定群の割合を3%以上向上させることを目指す。 ①の強い肯定群 54% (4月) ②の強い肯定群 61% (4月) ③の強い肯定群 65% (4月)	91%	・目標としていた3つの項目のうち、①②では強い肯定群の割合を3%以上向上させることができた。 ・年度末調査では①の強い肯定群 61%、②の強い肯定群 62%、③の強い肯定群 74%となり、特に③の項目については大幅に向上した。	◆全ての項目で全体的な肯定的評価を、2つの項目で強い肯定群の割合を目標値まで向上させることができた。特に③の授業への理解度については強い肯定群の割合が大きく増えた。今年度よりタブレットの使用を積極的に取り入れ、指導者のモデルを手元で何回も見ることができるようになり、児童の学習状況を録画しステップごとにアドバイスを返すようにしたこと、ロイノートテスト機能を使って習熟度を確認しながら授業を進めたこと、姉妹校や他校のALTとの交流など本物の活動を行ったことなどが効果を上げることにつながったと考える。	
	②英語の授業で、英語で読んだり書いたりすることが楽しい。(5・6年生のみ)		91%			
	③英語(外国語活動・外国語)の授業はよく分かる。		94%			
教員	④英語に対する苦手意識を感じていない。	2 教員意識調査の肯定的回答の割合の向上 ・④⑤⑥をいずれも20%以上の向上を目指す。	25%	・3つの項目のうち、⑤だけは目標を達成することができた。 ・④⑥については1学期と変わらない結果となり、向上させることができなかった。	◆市教委の先生方の全面的な協力の下、年間5回の英語力向上研修を行い、昨年の課題であったサポート体制を整えることはできたが、④の苦手意識については改善することはできなかった。数字としては変わらないが、教員から「前より英語が楽しいと思う場面が増えた」「前よりは英語力がついてきたと感じる」という意見があった。これを裏付けるように、⑤の会話力や語彙力を身に付けようとする意欲は向上させることができた。これは、英語力向上研修の成果の一つであると考えられる。	
	⑤英語の会話力や語彙力を身に付けようとしている。		50%			
	⑥英語の授業における指導内容・指導方法について理解し、指導できている。		75%			
到達目標達成のための取組		取組計画			指標達成状況	
項目	成果指標	5～2月			達成状況	年度末評価
英語教育の推進体制の構築	◆校内研修体制においてメンター制が効果的に活用できたか。 ◆教員意識調査 ④⑤肯定群 20%以上向上 ◆児童意識調査 ③の強い肯定群 3%以上向上	◎自ら課題を見つけて研究を進め、PDCAサイクルを確立できるよう、メンター制を活用してグループで若年教員を支えながら研究を進める。 ・学校の実態を把握し、校内研修を計画的に実施する。主に月1回の拡大校内研修会を活用して研究を進める。 ・公開授業等を通して、研修の充実を図る。(7月・12月・2月) ◎公開授業の前に模擬授業研修会を実施し、単元づくりや授業力を高める方法について話し合う時間を設定すると共に、後期課程の教員も参加して模擬授業を行う。 ・校内研修に高知市教育委員会指導主事を招聘し、研修の活性化を図る。			◆意識調査の結果、児童は向上したが、教員は一部しか向上しなかった。数字としては向上させることができなかったが、市教委の先生方の全面的な協力の下、模擬授業研修、メンター研修、英語力向上研修を組み合わせながら研修の充実を図り、市教委の先生方から「研修を受ける様子が大きく変わってきた、積極的に進歩を感じる」というご意見をいただいた。	B
学習指導要領に基づいた指導方法及び学習評価の工夫改善	◆「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の活用ができたか。 ◆教員意識調査 ⑥肯定群 20%以上向上 ◆児童意識調査 ②の強い肯定群 3%以上向上	◎「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定し、「何ができるようになるか」を児童と共有するとともに、目標の達成状況を把握する。 ◎英語で読んだり書いたりする力をつけるために、短時間学習「ぐんぐんタイム」を活用する。 ・外国語教育や学習指導要領にかかわる研修(授業づくり講座や授業改善研修等)に参加することで、学習指導要領に基づいた指導方法についての理解を図る。 ・講師招聘のもと、学習評価についての研修会を実施する。 ・校内で推進教員を中心とした模擬授業や打ち合わせ会を実施し、学校全体として授業改善を進める。			◆この項目も意識調査の結果、児童は向上したが、教員は横ばいのままであった。児童については、取り組みを計画通りに進めることができ、研修で得た知識を使って学習指導要領に合った言語活動を進めるように心がけた結果であると考えられる。教員については、理解はできているが、指導できていると言い切る自信がない、という言葉が聞かれたので、肯定感を高められるよう、来年度に向けて更にサポートする必要がある。	B
豊かな言語活動を育む場面の設定	◆姉妹校との遠隔授業や、CIRとの活動など、児童が実際に英語を使える場面や状況を設定できたか。 ◆児童意識調査 ①の強い肯定群 3%以上向上	◎オーストラリアの姉妹校との遠隔授業やCIRとの交流等を通して、外国の文化に触れるとともに、コミュニケーションのツールとして英語を使う体験を増やすようにする。 ◎短時間学習「ぐんぐんタイム」の時間を活用し、異学年交流などの場面を設定する。 ・English Corner(掲示板)を活用して、外国の文化に触れる機会を増やす。 ・「Kochi 使える広がる Fun!Fun!えいご」を授業で活用するだけでなく、短時間学習「ぐんぐんタイム」や家庭学習等での活用を工夫することで、児童の英語力向上をめざす。 ・学力向上部より、外国語だよりを発行し、地域や家庭に児童生徒の学習の様子を知らせる。			◆姉妹校との交流及び遠隔授業、他校のALTとの交流などを行うことで、児童が英語を使ってコミュニケーションを行う場を設定することができ、それが学習意欲を向上させることにつながった。外国語だよりには全ての学年の学習内容を月替わりで掲載して地域や家庭に知らせ、それを読んだ感想を受け取るなど効果を感じることができた。校内でも読み合って互いの活動を知ることにつながることができた。	A